

ウルリム
響

星 環

特定非営利活動法人

聖公会生野センター機関誌
第48号 (クリスマス特別号)
2008年12月1日発行

題字：康秀峰

URL <http://www.nskk.org/province/ikuno>

E-mail: ikuno@nskk.org

クリスマスおめでとうございます。

聖公会生野センターの日常の活動から写真をいくつか皆さんにお届けします。センターに関わる人々の生き生きとした姿がお伝えできれば幸いです。



美術教室夏の特別プログラム＝アイスクリームを作ろう＝。
親子で楽しく過ごしました。(8/31)

NPO法人 聖公会生野センター



ソウル教区主教の金根祥主教様がセンターを訪問。
のりばんのボランティアと一緒に (9/1)



デイサービスでドラムに挑戦する浅里さん



のりばん恒例の焼肉と踊りのひととき。
ボランティアも一緒に楽しみました。(11/21)

イギリス聖公会（チャーチ・オブ・イングランド）のホームページを見てみると、現在世界中を覆っている経済危機の中で、借金地獄にある何万人もの人々からのメールがイギリス聖公会に助言と祈りを求めて殺到しているそうです。アフリカなどグローバリゼーションによる経済危機と環境破壊とが同時に進行しているところでは、食糧危機と飢餓が加速度的にひどくなっています。世界では1年間に1000万人もの人々が飢餓のために命を失っています。一日にすると2万5000人です。日本でも多くの中小企業が倒産の危機に瀕しています。派遣やパートの境遇にある多くの働き手は、仕事を失っています。まさに「出口なし」の閉塞状況とでもいうのでしょうか。大阪の生野ではどうでしょうか。そんな年末を迎える2008年のクリスマス！わたしたちは、「クリスマスおめでとう！」と言えるでしょうか。

今から2000年あまり前のイスラエルも、「地の民」として侮られ、差別と抑圧のもとにあった底辺の人々の生活は悲惨でした。ローマ帝国の支配のもとで、過酷な人头税を取り立てられ、ユダヤの支配層からもさまざまな名目で税金を搾り取られました。幼子イエスが救い主として生まれたのを知ったヘロデ王は、軍を派遣してベツレヘムとその周辺一帯にいた二歳以下の男の子を、一人残らず殺したと聖書には記されています。そのような閉塞状況の中で、両親の旅先において、一人の幼子が家畜小屋の中で生まれます。しかし、この誕生の事情は、イエス・キリストが誰のためにこの世に生まれたのかを示していると言えないでしょうか。今年7月に逝去された在日大韓キリスト教川崎教会名誉牧師であり、長年、在日韓国・朝鮮人に対する日本社会の差別と闘い、キリストの福音の在処を示してこられた李仁夏先生が20年前に書かれた『明日に生きる寄留の民』という本の中にこんな言葉があります。「イエスの誕生を今日の歴史的な脈絡でとらえるならば、イエスは本来開かれているべき社会から閉め出されている、捨てられ、侮られている人々の間に生まれたるしとして、飼い葉桶にその身を置かれる。」「わたしの郷里の伝統的な家屋構造は母屋とサランバ

イエス・キリストは誰のために来られた？

ペテロ 岩城 聡



ンという離れから成り立っている。サランバンは学びと遊びの場であり、接客の場ともなり、夜を迎えたとき、客人が乞えば宿泊の場としても提供される。聖書の客間はそんなところではなからうかと連想する。このように開かれた自由な空間に生まれたばかりの幼児がいる余地がなかったという。人間に本来開かれている交わりから拒否されて、飼い葉桶に寝かされていたのである。この記述の中に、イエスの苦難の生涯が暗示されている。」そして、この救い主の誕生が真っ先に知らされたのは、羊飼いであったということも大切なことです。羊飼いは当時の社会の中で、重要な産業の担い手であったにも関わらず、律法を守ることができない「地の民」として蔑まれていました。その彼らが、クリスマスの最初の証人となったのです。

今、社会の差別の中で悔しい思いをしている人々、経済危機の中で生活苦にさいなまれている人、社会のストレスのもとで心に苦しさを抱えている人。そのような人のためにこそこの幼子は生まれ、神はまさに彼らの苦しみを分かちあい、共に立ち上がって下さる方であることを示して下さったと、わたしは信じます。ですから、「クリスマスおめでとう」とあえて言いたいと思うのです。

(いわき・あきら 大阪教区 堺聖テモテ教会 牧師・聖公会生野センター理事)

しきぶとんのしたのえびのさびしさ

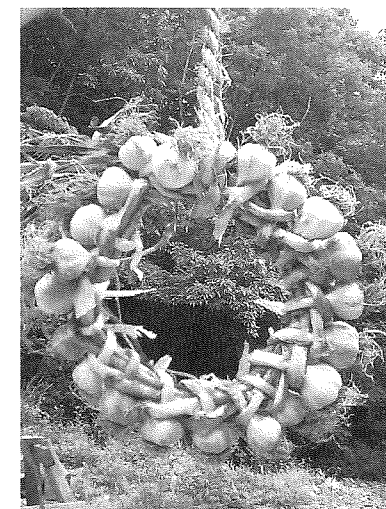
中村 香

韓国で過ごしたクリスマスは合計3回だ。初めてのクリスマスはソウル留学中のとき。彼の通うメソジストの教会で、24日の昼から集まり、韓国風餃子を皮から作った。小さい教会だが大人子ども合わせて15人ぐらい、みな教会に泊まって朝まで宴会だった。聖公会の教会にも通っていた私は、25日のクリスマス深夜礼拝にどうしても出たくて、夜にメソジストの教会を出て一人、聖公会の教会に行った。同じキリスト教なのに受け入れられない自分がいる。

次のクリスマスは結婚してから迎えたクリスマス。今年もメソジストの教会で、今回は23、24日と泊りがけの祝会を開き、25日のクリスマスに教会は休業となった。それでも教会か！と今までの私なら思っただろうが今年の私は「クリスマスぐらいお休みにしよう」というユニークな考え方が笑えたり、すごく気に入った。おかげで24日のクリスマスイブ礼拝と25日の深夜礼拝を聖公会の教会で、彼と一緒にささげることができた。

3回目のクリスマスはソウルから田舎に引越してから迎えるクリスマス。田舎に来てからは聖公会の教会を断念して、メソジストの教会に専念することにした。しかし教会に通えば通うほど寂しさは募るばかりで、教会に馴染めないでいた。初めて教会に来る人たちはこんな思いをしていたんだなとしみじみ思っていた。

24日は礼拝堂でクリスマス会。子どもから大人まで、歌、踊り、演奏、クイズ、プレゼントなど、盛り沢山の楽しいクリスマス会だった。それが終わって夜の11時ごろ、次はキャロリングに行くと言う。グループに分かれ車に乗って、申請した約30人の信徒の家を訪問してクリスマスソングを歌うというのだ。家に着くのは朝の4時ごろのこと。夜中に歌を歌いに行くのが信じられないし体力の限界もあって、私は教会の運行する車に乗って先に家に帰った。こんな真夜中のキャロリングが許されるとは、やはり寛大な国、韓国である。



にんにくで作ったクリスマスツリー

家に着いてすぐに、オンドル（床暖房）の敷布団の中に身体を滑り込ませてカチコチになった体を解凍した。ようやくほっとして気が付くと、私は一人だった。外国で、まだ慣れない土地で、隙間風びゅうびゅうの土

の家で、一人だった。大家族のうえに教会で生まれ育った私は、一人であることがほぼ、なかった。トイレささドアを閉めないでたまに見つかってお父さんにひどく怒られた。それが韓国に来てからはほとんど一人になっていた。25日、クリスマスの時間がせまっている。こんな形で、敷布団の下に一人、エビのように丸まってクリスマスを迎えるとは夢にも思わなかった。涙が出てきた。大声を出して泣いた。さびしい――と天に叫んだ。そうしてクリスマスを迎えた。

日本にいる外国の人がクリスマスに自殺をすることが多いと聞いたことがある。自分の国の楽しいクリスマスを思い出すからだ。そんな楽しい思い出を持っているのになぜ、と思ったが、今ではその気持ちが分かる。楽しい思い出は明るい未来を作るが時に、人を寂しさのどん底に突き落とす。私には枕する家があり、夫があり、家族があり、友があるのにそれでも、こんなに寂しい。外国に住むことは難しい。

大阪、釜ヶ崎のダンボールの間にうずくまって眠るおっちゃん、日雇い労働者を想う。異国に来て働く外国人労働者を想う。在日外国人を想う。日本にいるのに日本に馴染めない人を想う。韓国に馴染めない人を想う。ただ生きていくだけなのに寂しさから逃れられない人を想う。私はこれらの寂しさを少しでも分かるために、韓国に来た。のだと思う。

この世ではじめのクリスマスも寂しいクリスマスだったはずだ。マリアとヨセフは知らない土地に来て泊まる場所もなく馬小屋でイエスを産んだ。神から授かった子どもなのに。マリアとヨセフはどんなに悲しく寂しかったらうか。クリスマスはこの世にあって寂しさと共にある。寂しい人と共にある。

しかしあの世でのクリスマスはどんちゃん騒ぎの宴会だった。天使の大群は天空を飛び交い、人が聴こうが聴くまいが、イエスが生まれたことを大いに声にした。

私はこの世の寂しさによって、あの世の喜びの歌を聴きたい、日本にしようと韓国にしようと、浮かされただけの楽しさの中にあろうと、消えたいほどの寂しさの中にあろうと。この世にあってあの世を歌うために、私はこの世に来た。のだと思う。韓国にまで来た。のだと思う。韓国ではキムチシーズン。私たちが栽培した白菜と大根でキムチを作った。にんにく300個を買って夜の3時まで皮をむいた。3日がかりでキムチをつけ終え疲れすぎて泣いた。おかげで最っ高にうまいキムチができあがった。

原稿がキムチくさくてごめんなさ〜い。食べに来てもいいよ。

(なかむら かおり 韓国在住)

=生野地域福祉アクションプランに關わって=

吳光現

地域福祉を推進しようと、4年前から生野地域福祉アクションプランが始まりました。まず、3年かけてプランを策定し、現在はそれに従ってプランの推進に入っています。聖公会生野センターも当初から総主事が策定委員として入り、現在は推進委員の関わりをしています。

これは法律で定められたものであり、全国の大半の自治体が策定をしました。生野区の特徴は具体的な課題の取り組みということで高齢者、しょうがい者、女性、子ども、そして在日の課題を策定し、策定、推進をおこなっているものです。

私は当初から在日部会（現在は在日チーム）の部会長として責任ある働きを与えられました。後でわかったことですが、全国で策定されたアクションプランで在日外国人を地域福祉の課題として正面から据えたのは生野区しかありませんでした。日本にこれだけ多くの外国人が居住するようになって残念ながら外国人が地域福祉のファクターにならないというのは残念なことです。それだけ生野区の取り組みは先駆けになるかと思えます。

去る7月に大阪市にプレゼンテーションをおこ

なって、「在日と日本人が共生するためのフロンティア事業」を申請し、採用されました。内容は2つの柱からなっています。在日と日本人が深く相互理解するための、民生委員との懇談会（実は民生委員には国籍条項があり、外国籍住民はなれません）と地域住民啓発の講演会の開催です。

懇談会を通して2つのことを思いました。一つは民生委員の方々は在日も日本人も同じように接していること。と、同時に決して民生委員が在日の歴史、現状を知っているわけではない、ということです。その為、11月には古代から現代までの生野の歴史と韓国朝鮮人の学びをおこない（この号が出る頃には開催されている）、来年2月には近現代の大阪の歴史と在日韓国朝鮮人をテーマにして、地域住民、特に福祉に関わっている人たちの今後の働きに役立てていただくという狙いがあります。

アクションプランに關わって多くのことを感じ、思い、そして学びました。住民の4分の1が外国籍の地域であっても地域社会は決して在日を理解していない。しかし長い歴史の中で自然と混じり

合って「共存」している。もう一步進んで「共生」の地域までにはまだまだ距離が遠い、等々です。このアクションプランは初めてその仕組みとして「在日」の課題を日本人も共に考え取り組んでいこうというものです。古い地域社会と新しいコミュニティの形成がどう絡み合っていくのか、今後が楽しみです。（お・くあんひょん 総主事）

(1) 2008年(平成20年) 8月 THE SOCIAL WELFARE IN OSAKA No.639

大阪の社会福祉

アクションプラン

創意工夫の取り組みから14のフロンティア事業が選定

平成19年度(17年度)の引き継ぎとして、今年度も「生野地域福祉アクションプラン」を推進する。その一環として、7月1日に「大阪府社会福祉センター」で、その後の活動の方向性を話し合った。

◆在日外国人の生活支援
在日外国人の生活支援は、地域福祉の重要な課題の一つである。特に、高齢者や障がい者、子どもなどの生活支援は、地域社会の持続可能性を高めるために不可欠である。本センターでは、在日外国人の生活支援を促進するために、14のフロンティア事業を選定した。

◆地域住民との相互理解
在日外国人と地域住民の相互理解を促進するために、懇談会や講演会を開催する。これにより、お互いの文化や生活習慣を理解し、共生社会の実現を目指す。

◆外国人労働者の支援
外国人労働者の生活支援や労働環境の改善を図る。特に、障がい者や高齢者の外国人労働者の支援は、地域社会の活性化に大きく貢献する。

◆外国人の生活支援
在日外国人の生活支援は、地域福祉の重要な課題の一つである。特に、高齢者や障がい者、子どもなどの生活支援は、地域社会の持続可能性を高めるために不可欠である。本センターでは、在日外国人の生活支援を促進するために、14のフロンティア事業を選定した。

アクションプランのフロンティア事業の審査でパネルを使いながらプレゼンテーションする吳光現総主事（大阪市社会福祉協議会機関誌「大阪の社会福祉」2008年8月号より）

新拠点の募金お願いします。

今年の管区総会で聖公会生野センターの新拠点の取得のために全国募金が決議されました。決議内容は以下の通りです。募金活動への参与よろしくをお願いします。

日本聖公会第57（定期）総会決議（2008.5.27-29）決議第20号（第25号議案可決）
聖公会生野センターの新拠点確保に当たっての募金活動を支援する件

- 提出者
- 聖職代議員
司祭ペテロ齊藤壹（大阪教区）
司祭ペテロ岩城聰（大阪教区）
司祭ペテロ大町信也（北海道教区）
司祭マリア山野繁子（東京教区）
司祭テモテ宮嶋眞（京都教区）
司祭キャサリン吉岡容子（九州教区）
- 信徒代議員
フランス佐野信三（大阪教区）
アンデレ根本邦夫（大阪教区）
アイレネ佐々木靖子（京都教区）

聖公会生野センターは今年3月に新拠点を確保したが、今後さらに生野地域での宣教と奉仕の業を強めるために行う募金活動を、日本聖公会全体として支援し、各教区でも協力することを承認する。

記
〔募金目標〕 3,500万円
〔募金期間〕 2008年7月から5年間

〈提案理由〉
日本聖公会第39（定期）総会（1988年）において「聖ガブリエル教会、聖ガブリエル地域活動センター建設募金活動を積極的に支援し、会館完成後は、その趣旨にそって日本聖公会が運営に参加していくこと」が決議され、在日韓国・朝鮮人と日本人、さらに韓国と日本との、イエス・キリストにおける和解と共生を願って発足した聖公会生野センターが16年を経ました。その働きを継続

収入	支出		
募金	1,877,590	通信費	96,390
		事務費	5,980
		振込手数料	10,450
合計	1,877,590		112,820
差引残高	1,764,770		

して行く中で、行政との関わりや公的助成金を得ていく際の制約を乗り越える必要もあり、2005年に特定非営利活動法人（NPO法人）を取得しました。しかし、これまでは独自の活動空間がきわめて狭く、地域活動を展開する上での大きな妨げとなっていました。今回、聖ガブリエル教会、博愛社こひつじ乳児保育園と共にあった場所から移転し、在日韓国・朝鮮人のより多い地域に、約32坪で一部3階建ての建物を廉価で賃借できることになり、内部改装工事も済ませた。現在は賃借ですが、近い将来における物件の購入を目標に、総額3,500万円の募金活動を呼びかけようとしています。同センターの活動の上に神の恵みが与えられるよう、日本聖公会全体として、また各教区で具体的な支援を行うことが是非必要です。

ご献金ありがとうございます。
新拠点募金芳名者
(2008.7/3-11/21 順不同・敬称略)
名前の後の括弧の数字は献金の回数)

日比谷潔/財団法人キープ協会/神谷尚孝/佐藤大介/榎垣文子/大田美智子/向井希夫/中山一郎/内藤昇/松本一郎/三木メイ/大洲聖公会/岡本勝/宇野徹/金光秀晃/聖パウロ教会/奈良慶治良/保坂久代/中西久忍夫/前田良彦・恂子/稲原三千/松本正俊/博愛の園/山本保彦/森中みよ子/関正勝・澄子/中村大蔵/関本肇/佐治孝典/湯田美明/岩坂正雄/社会福祉法人東光学園/松本一郎/山口元/金永子/岩城聡/前原ひろ/吹留辰雄/久保道則/相澤敏江/高松聖ヤコブ教会/尾崎茂雄/今富三/辻彩乃/高地敬/堀江裕一/芦田邦子/小杉勉次/小室一/鈴木満紀子・慰/大田黒千穂子/金秀吉/武藤六治(3)/谷富夫/村田恵子/中芝永次/早川善樹/伊藤美佐子/相原俊次/韓国殉教者修道女会/日本聖公会神戸教区/宗像和雄(2)/趙秀一/井出吉志子/稲荷山諸聖徒教会/森生加寿子/石橋英昭/高橋昇三/三浦恒久/金由汀/寺本眞名/野木愛子/加納実/松蔭女子学院/小林聡/聖心幼稚園/糸井玲子/植田哲子/聖公会神学院学生寮/百井幸子/竹林徑一・敏子/大谷タカコ/真鍋倫子/本田富久子/京都教区婦人会/マイケット/藤永壯/大塚勝/猿橋靖/久下克己/基子.Tbray/泉迪子/笑福亭仁嬌/大阪城南キリスト教会/大西修

■以下の方々から移転祝い金をいただきました。感謝して経常会計に計上いたしました。(順不同・敬称略)
山根健司・博子/大橋襄/岩城聰/齊藤壹/李同順/のりばんハルモニ有志/クリンもだん美術教室保護者有志/青柳美智子

送金方法

■郵便振替
加入者名 聖公会生野センター後援会
口座記号 00960-0-133429
*郵便局のATMで振り込むと振込手数料が少しくなります

■永和信用金庫 生野小路支店 普通預金
口座名 特定非営利活動法人 聖公会生野センター
口座番号 0212510

大橋 襄

毎年のことだが、11月も半ばともなると、巷には早くもクリスマス・ツリーがお目見えする。しかも飛び切り立派なツリーが。わが国はキリスト教国でもないのに、いつしかクリスマスは年中行事として市民権を獲得してしまった。

でも、私がかつてある大学で教えていたとき、「クリスマスとは何の日？」と聞いてみたら、ミッション系の学校でありながら、ある学生が「サンタクロースの誕生日」と無邪気に答えたのにはがっかりした。

クリスマスとは、英語で書けば「CHRISTMAS」。つまり「イエス・キリストのお祭り・降誕日」なのに、その意味や意義がすっかり欠落してしまって、若者たちはこの「聖夜」を、プレゼントを交換し、デートや食事、ダンスやカラオケ、ケーキで思い切り楽しむ時と心得ているようだ。「日本人はなぜキリスト教を避けるのか」（勝本正實氏著、いのちのことば社）という本の中で、筆者は「日本でクリスマスが年中行事と化した

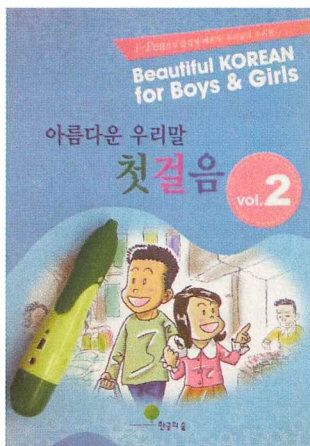
「クリスマスは何の日」

のは、かつて日本が仏教にたいして行ったことに似ている」として、「日本では仏教は本来の姿から変って、ご利益や呪術的性格の強い、また供養中心の宗教として受け入れられ、(人々が)自分たちの要求、好みに変えてしまった。クリスマスにもこうした日本人の“改造能力”が反映されている」という意味のことを書いておられる。

イエスは人間の罪を贖うためにこの世に降った「神のみ子」でありながら、貧しい馬屋で人知れず生まれ、その日から十字架への苦難の生涯を歩み始められた。またイエスの誕生をまず最初に知らされたのは、世間から疎外されていた羊飼いたちだった…など、教会は日本人の改造能力に抵抗するため、こうした正しいメッセージを絶えず発信し続けるべきだと思う。もしも、「まあ、かわいい赤ちゃん」「天使も羊も歌っているよ」だけのメッセージでは、商魂の餌食に墮するだけだと思う。

(おおはし たかし センター理事)

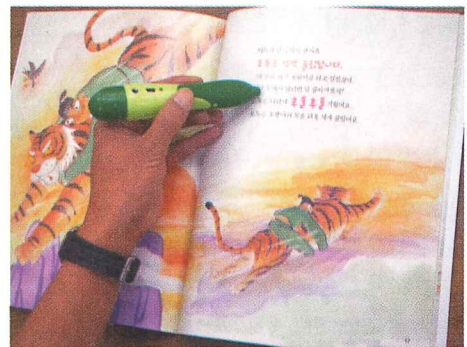
「美しいウルマル (韓国語) 初歩」販売代理店開始!



テキストと i-pen

韓国語の学びに画期的な教材が開発されました。i-pen をページに合わせると、本文すべてが、行に合わせるとその行が発音されます。グローバル社会に合わせて英語の発音も学べます。

親子と一緒に学べるこの教材の取扱をすることになりました。やってみるととても楽しく学べやすくなっています。見本がありますので関心のある方、ご一報下さい。



i-pen の先を行に合わせると・・・韓国語が聞こえてきます。

聖公会生野センターへのご支援をお願いします

- ◇正会費 年額 1口 5,000円
- ◇後援会費 年額 1口 3,000円
- ・郵便振込 00910-1-321780 「聖公会生野センター」
- ◇自由献金・クリスマス献金
- ・郵便振込 00910-1-321780 「聖公会生野センター」
- ・銀行振込 三菱東京UFJ銀行 東大阪支店
普通預金 4654965 「特定非営利活動法人聖公会生野センター」

発行所：聖公会生野センター

〒544-0002

大阪市生野区小路3丁目11番19号

TEL06-6754-4356/FAX06-6224-7869

E-mail: ikuno@nssk.org

http://www.nssk.org/province/ikuno

発行人：大西 修

編集人：大橋 襄

ウルリムは再生紙を使用しています。